

【ご参考】ガマ腫の経緯

2022 年 9 月 11 日

大阪府在住 女性（発症時 50 代）

1 年あまりガマ腫に苦しみましたが、深瀬先生が開発された OK432 を用いた治療法で救われました。

感謝とともに、先生のご研究の参考になればと思い、私の事例をまとめましたので、参考にしていただければ幸いです。

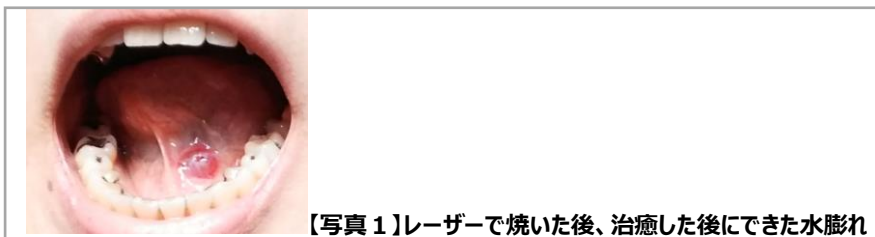
（病院・先生の前につけているアルファベットは、識別のために、記述順に A からつけているもので、その病院・先生のイニシャルではありません。ご了承のほどお願いいたします。）

1. ガマ腫を発症、A 歯科にてレーザーで嚢胞摘出

- ・2018 年 12 月下旬、塩辛い唾液が出るようになり、舌の下が赤く腫れているのに気が付く
- ・12 月 25 日、水膨れのようなものが急に大きくなり（直径 1cm ほど）、痛みもある
- ・12 月 27 日、どこで診ていただくべきかわからず、年末で閉まっている病院も多かったため、近くの A 歯科に行く。「レーザーで穴を開けて中の唾液を出しましょう」とのことだったが、処置後に「穴が開けられなかったので、レーザーで嚢胞を取りました」と言われた。痛み止めをもらったが、数日間、激痛。
- ・2019 年 1 月 5 日、A 歯科にて消毒。回復を促すとのことでレーザー照射。
- ・1 月 19 日、A 歯科にて消毒。回復を促すレーザー照射。「もう来なくて大丈夫」とのこと。
- ・1 月 23 日、レーザーの傷は依然治らず、舌を動かすたびに痛い。行きつけの B 矯正歯科に行って相談。「大学病院でないと治療できないが、まずはここで診てもらってはどうか」と、遠方の C 歯科（口腔外科）を紹介された。

2. C 歯科で様子見、「膨れて潰れる」を繰り返す

- ・1 月 25 日、C 歯科に行く。「（レーザーで切った）傷口はたいしたことありません」と、抗生物質をもらい、3 日間飲む。
- ・1 月 29 日、痛みが続くため、C 歯科に行く。「様子を見ましょう」と、さらに抗生物質をもらって飲む。
- ・1 月 30 日、傷口はふさがった。突然、水膨れができる（1cm ほど）【写真 1】。痛い。



- ・2 月 1 日、水膨れが、気が付いたらつぶれていた。翌日 C 歯科に行く。「様子を見ましょう」とのこと。その後、水膨れができ、どんどん大きくなる（うずらの卵ほど）。その後も「膨れて潰れる」を繰り返す。【写真 2】
- そのたびに大きくなり、不安でいっぱいになる。



- ・「唾液腺は歯科ではなく耳鼻科」と聞き、自宅近くの D 耳鼻科に行くが、「これはガン腫で、治療できるのは大学病院。こんな状態にしたのは僕ではないから、紹介状は書かない」と言われる。
- ・勤務先の産業医にお願いして、E 大学病院耳鼻科に紹介状を書いてもらう。
この頃、ネットで OK432 を使った治療があると知る。

3. 大学病院耳鼻科でさまざまな検査をした結果、「治療はしない」とのことで、C 歯科に戻り、開窓術を受ける

- ・2019 年 2 月、E 大学病院耳鼻科にて、MRI、CT、がんの検査、血液検査、心肺機能検査、体力測定等（なぜこんな検査をするのか疑問でしたが、もし手術になったときのために必要とのこと）、かなりの金額を支払って受けた結果、「ガン腫と思われる。大学病院は研究機関なので、治療は他の病院でやってください」とのこと。OK432 の治療をお聞きしたが、「やっていない」とのこと。頭が真っ白になる。あの 2 週間にわたる検査はなんだったのだろう。

かかりつけの F 耳鼻科と G 耳鼻科を受診したが、どちらもガン腫の治療はしていないと言われ、途方に暮れ、C 歯科に戻る。OK432 を使った治療について C 歯科に相談するが、ご存知ではなく、治療法は開窓術とのこと。



【写真 3】4/16 開窓術

- ・4 月 16 日、C 歯科で開窓術を受ける。【写真 3】

- ・4 月 23 日、抜糸。翌日、膨らむ。【写真 4】

その後「膨らんで破れる」を繰り返す。【写真 5】 どんどん大きくなり、膨らむときの痛みがひどくなる。



【写真 4】4/26 抜糸後にできた嚢胞



【写真 5】5/19 表面だけでなく、中のほうまで広がって痛い

- ・5 月 25 日、膨らみが舌のつけねあたりまで広がり、痛みに加え、食べたり話したりが難しくなってきたため、C 歯科を受診。メスで切開。「ふくろが下にいくつもできている」と言われ、不安でいっぱいになる。
C 歯科に「どうしたらいいかわからない」と言われ、H 大学病院歯学部で紹介状を書いてもらう。

4. 大学病院歯学部で開窓術を受け、さらにひどくなる

- ・5 月 27 日、H 大学病院歯学部を受診。MRI の結果、「がんの疑いあり」と言われ、愕然。再検査し、ガン腫の診断。I 助教授は「治療法は開窓術か OK432」と言われ、やっと OK432 がわかる先生に出会えたと思いきや、2 人いる担当医のうち、J 先生は「開窓術をします」とのこと。K 先生は「開窓術を何度しても再発し、結局は唾液腺摘出になる。それでも開窓術をするのか」と言われる。「ならば、OK432 を使ってください」と頼むが、「危険だから使わない」と言われる。



【写真 6】7/5 開窓術

- ・7 月 5 日、開窓術を受ける。【写真 6】 1 回目よりも広範囲。

・8月、再発。【写真7】

手術範囲が大きかったため、大きな嚢胞ができ、H 大学病院歯学部を受診。執刀された J 先生は産休で、K 先生は出て来られず、担当は L 先生になっていた。

L 先生から「ガマ腫は再発するものです。そのたびに何度でも開窓術をするんです。またやりましょう」と言われたため、「OK432 を使ってください」と頼んだところ、「OK432 は点滴で入れますから、入院になります」との返事。また、患部を見て「赤くなっている。炎症を起こしていますね」と、抗生物質を処方。（炎症ではなく、唾液がたまって赤くなっているのだが）。不安になり、開窓術の予約は保留とする。



【写真7】8月再発



【写真8】潰れる



【写真9】9/15 膨れる

・9月、痛みと話しづらさがひどく、H 大学病院歯学部を受診。

再度 OK432 の治療をお願いしたところ、「前回、点滴と言いましたが、そうではなく、顎から注射します」と言われた。「私は舌下型ガマ腫ですから、顎からではなく、口の中からだと思いますが」と言うと、怪訝そうな顔。

いずれにしても、「OK432 は危ない薬ですから、使いません」とのこと。もう開窓術はしたくなかったので、転院を伝える。

5. M 耳鼻咽喉科クリニックで、やっと OK432 の治療を受ける

・9月、ネットで探し、吹田市で OK432 を用いたガマ腫の治療をされている M 耳鼻咽喉科クリニックを受診。ガマ腫を正しく理解し、治療していただける先生にやっと出会えて、涙が出てきました。言われることが、これまでの先生方とまったく違い、大変納得できる診察でした。

・10月、OK432 を用いた治療を開始。これまでの度重なる外科的処置の影響で、範囲が広く、しかも破れやすかったため、1回では治癒せず、3か月の間に5回注入し、2020年1月にほぼ治癒。



11/30



12/1

【写真10】OK432の注射3回目。嚢腫がかなり小さくなっています。

・2020年7月、約半年ぶりに小さなものが再発。OK432 を7月10日と23日に注射し、完全に消滅。

・その後、現在（2022年8月）に至るまで、再発しておりません。【写真11】



【写真11】2022年8月。ガマ腫はありません。

（カメラが変わったため、この写真は、写真10までとは左右が逆になっています。写真1～10は舌下の右側にガマ腫があった場所が写っていますが、この写真では左側が、ガマ腫があった場所になります。収縮しています）

6. 所感

発症から治癒までの1年間あまり、ふくれてくる圧迫痛や、話しづらさ等、辛いことは多々ありましたが、最も辛かったのは、
・M耳鼻咽喉科の先生に診ていただくまで10名の歯科医・耳鼻科医に診ていただきましたが、ほとんどの先生が、ガマ腫と
わかれると嫌な顔をされ、「これは治らない、やっかいな病気」と言われ、多くの先生が「ここでは治療しない」と言われたこと
・様子を見ているだけでは悪化し、やっと治療してくださる先生に出会えても、外科的な治療をすればするほど悪化していった
こと
です。

ガマ腫は命にかかわる病気ではありませから、多くの先生方は「面倒な病気」で片づけてしまわれますが、どんどん悪化してい
き、治療をすればするほどひどくなるのは、非常に辛かったです。また、顎下型に移行するのではという不安もありました。
（「顎下型への移行はありえない」と言う先生もおられましたが、深瀬先生が書かれているように、実際にあるようですので）。

講義やスピーチなど人前で話すことが多い仕事をしていましたから、突然膨れだすと話しづらく、仕事にも影響がありました。
診ていただける病院を探し、片道1時間以上かけて行き、何時間も待って診察、結局「治療しません」と言われる。これを
何度も続けていると、心身ともにこたえました。
さらに、「炎症を起こして赤くなっている」「血がたまっている」「治療は、嚢を取ることに」「悪性腫瘍かもしれない」と言われる先
生方もおられ、ガマ腫のことを理解されているのか、ますます不安になりました。

「開窓術が一般的な治療法」と言われる先生がほとんどでしたが、素人の私が考えても、表面を切り取って唾液が流れるよ
うにしても、はぎとった組織が回復すれば、また唾液がたまるのは当然です。それを「再発するたびに、100回でもやるんです」
と言われた時には、絶望的になりました。

また「どうせ唾液腺摘出になるから」と言いながら開窓術をすすめるというのも、理解ができませんでした。その先生は開窓術
を多くされておられたので、「開窓術で完治した患者さんがおられますか」とお聞きしたら、「皆そのうち来なくなるから、治ったか、
諦めたかわからない」と言われ、悲しくなりました。

ネットで深瀬先生のホームページを拝見し、ガマ腫を治されていることを知り、どれだけ励まされたかわかりません。
何度も深瀬先生に診ていただこうかと思いましたが、当時は仕事が非常に多忙で、しかも、私のガマ腫はすぐに破れてしま
うことが多かったため、大阪でOK432をやってくれる先生を探しました。

M耳鼻咽喉科の先生にも深く感謝しております。

OK432を注射すると熱も出て腫れて痛みもありますが、ガマ腫が小さくなっていくのが確実にわかりましたので、信じて治療
をすることができました。

深瀬先生がOK432を使った治療法を開発され、それをホームページで発信されておられたことに、厚く御礼申し上げます。

多くの先生方がガマ腫を正しく理解され、OK432を使った治療が当たり前になることを、切に願っております。

以上